

## 令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果について（6年）

令和4年4月19日に6年生の全国学力・学習状況調査（国語・算数・理科）を行いました。その結果が集計されたものが以下になります。学校では、この結果や分析を授業改善プログラムに反映するなどして、本校の教育活動の一層の充実と改善を図ってまいります。ご理解とご協力をお願いいたします。

### 1 調査結果 ※ 太字は、全国・都平均を上回っているもの。

国 語		平均正答率（％）		
		大泉小	東京都	全国
全 体		<b>72</b>	69	65.6
言葉の特徴や使い方に関する事項		<b>71.8</b>	71.4	69.0
A 話すこと・聞くこと		<b>76.5</b>	69.1	66.2
B 書くこと		<b>56.5</b>	51.3	48.5
C 読むこと		<b>77.1</b>	72.1	66.6
問題形式	選択式	<b>77.5</b>	75.3	71.8
	短答式	<b>67.5</b>	65.7	63.6
	記述式	<b>60.8</b>	53.9	51.3

算 数		平均正答率（％）		
		大泉小	東京都	全国
全 体		<b>73</b>	67	63.2
A 数と計算		<b>77.3</b>	72.1	69.8
B 図形		<b>75.6</b>	68.6	64.0
C 測定				
C 変化と関係		<b>64.4</b>	57.6	51.3
D データの活用		<b>78.4</b>	72.4	68.7
問題形式	選択式	<b>64.5</b>	56.7	51.8
	短答式	<b>84.5</b>	80.6	76.5
	記述式	<b>69.7</b>	62.7	60.2

理 科		平均正答率 (%)		
		大泉小	東京都	全国
全 体		69	65	63.3
「エネルギー」を柱とする領域		57.1	53.4	51.6
「粒子」を柱とする領域		64.2	62.4	60.4
「生命」を柱とする領域		82.4	77.4	75.0
「地球」を柱とする領域		74.1	67.7	64.6
問題形式	選択式	71.9	69.4	66.8
	短答式	70.6	67.0	66.2
	記述式	58.0	49.6	47.3

## 2 分析

### (1) 国語

大泉小の平均正答率は、全ての項目で都平均と全国平均を上回っています。特に、「書くこと」では都平均より4.2ポイント、全国平均より8ポイント上回っています。しかし、「書くこと」の問題では、無回答率が12%を超える結果がありました。目的や意図に応じて、理由を明確にしなが、自分の考えが伝わるように書くことに苦手意識があると考えられます。

今後、日常的に一人一人の記述について指導者が丁寧に添削したり、児童に推こうさせたりすることを繰り返し指導していきます。

### (2) 算数

大泉小の平均正答率は、全ての項目で都平均と全国平均を上回っています。しかし、「C 変化と関係」の領域においては他の領域と比べて正答率が下がる結果があります。特に、割合の問題において正答率が低いので、割合を使って考えることのよさを味わわせながら、日常生活においても割合を用いて考えることができるように指導していきます。

今後は、習熟度別少人数制の良さをより一層発揮し、それぞれのコースで、児童の実態に合った指導内容を検討します。そして、どのコースでも知識の定着を図り、身に付けた知識を使って自分の考えをもち、文字や絵、図にして表現することを繰り返し、思考力・判断力・表現力を身に付けられるように指導していきます。知識を身に付けるだけでなく、身に付けた知識を使ってよりよい解決方法を考えられるような態度を育て、算数の知識・理解を更に深めていけるようにしていきます。

### (3) 理科

大泉小の平均正答率は、全ての項目で都平均と全国平均を上回っています。特に「思考・判断・表現」に関する問題では、都平均を5.3ポイント、全国平均を8.1ポイントそれぞれ上回っています。さらに、記述式問題の正答率についても都平均を8.4ポイント、全国平均を10.7ポイントそれぞれ上回っています。しかし、実験器具や機器の正しい名前や使い方、「光は真っすぐ進む性質がある」ことを踏まえて考える問題など「知識・技能」面では正答率が低く、課題が見られました。

今後は、自分の考えなど表現する際に、器具や機器の名前を使うことをとおして、正しい知識と技能が身に付くよう指導を行っていきます。